

定例教育委員会【議事録】

日 時 令和5年11月9日(木)
10時00分～

場 所 岡谷市役所6階 605会議室
署名委員 藤森教育委員 林教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 次期魅力と活力ある学校づくり推進プラン後期計画の策定について【資料No.1】
(教育総務課)
2. いじめ・不登校の状況について(上半期)【資料No.2】
(教育総務課)

○ 報 告

1. 令和6年度予算編成方針について【資料No.3】
(全課)
2. 川岸学園設立準備室 視察について【資料No.4】
(川岸学園設立準備室)

○ その他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子、教育委員 林 慎太郎

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主幹指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、
子ども総合相談センター長 林 秀昭、教育総務課学校教育主幹 味澤 勝一、
教育総務課教育企画主幹 西山 塁、子ども総合相談センター主幹 長谷川 智康
川岸学園設立準備室川岸学園設立準備主幹 新村 尚志、教育総務課主任 大島 俊輔

<会議録>

○開 会

宮坂教育長： それでは、ただいまより令和5年11月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は藤森教育委員、林教育委員にお願いいたします。

○教育長報告

宮坂教育長： はじめに私から報告をいたします。

立冬を迎え、諏訪湖周辺を覆う霧が晴れると、本日のように美しい晴天が見られます。本当に美しい秋だと思います。

紫式部と聞くと、平安時代の歌人を思い浮かべますが、ムラサキシキブという花もあります。意外と強い植物で、コンクリートの隙間からも生えてきます。

花は6月から7月頃に薄いピンクの花が咲きます。名前の由来は歌人の紫式部であるという説もありますが、紫敷き実や紫茂実と言われるほど見事に実が集散していることも名前の由来と言われております。

先日、工業メッセがありましたが、子どもたちが元気よく質問する姿が見られました。地元開催ということで、社会科やスタンダードカリキュラム、ふるさと岡谷へのあこがれや回帰につながれば嬉しいです。

各校で教育課程等の発表がありました。神明小学校2学年がマットを使って運動しているところを見ましたが、活動力あふれる子どもたちが、体育館を目一杯使って遊んでいました。私が心打たれたのは、最後に先生が

「〇〇さん、こっちでマットやってみて。」

と声掛けをして、その子は見事にやり切りました。その後、何を工夫したら上手にできたかをクラスの皆へ発表していました。各校で実施してもらっていますが、一人ひとりに焦点を当てて、学びを保障していることを目の前で見るのができて嬉しく思いました。岡谷西部中学校の参観では、理科の先生が風力を説明する場面がありました。映像を駆使することで、風が吹いて木が揺れる様子などを説明しており、時代に合わせた授業の進め方でした。

また、小学校の交歓音楽会がありましたが、小井川小学校、上の原小学校、岡谷東部中学校の音楽会も見ることがありました。小学生の素敵な歌声、中学生の力強いメッセージが心に響きました。

川岸小学校150周年記念式典も実施されました。藤森委員には代読をしていただきありがとうございました。今月は湊小学校の記念式典がありません。

つづきまして、生涯学習課からの報告になります。

「読書の秋」と言われるこの季節、岡谷図書館では10月28日および

宮坂教育長：

29日に「図書館子ども読書まつり」を開催しました。

コロナの影響により、昨年までは縮小して実施しておりましたが今年度はコロナ前に戻し、2日間の開催といたしました。

ボランティア団体による絵本の読み聞かせや紙芝居、人形劇が披露されましたが、今回、教育委員会を代表して私が参加いたしまして宮西達也さんの「わたししんじてるの」という絵本の読み聞かせを行いました。5年ぶりの読み聞かせだったのでどうなるかと思っていましたが、ティラノサウルスや主人公を食い入るように見つめている子どもの姿がありました。これをきっかけに子どもたちが本とふれあい、本を好きになることを願っているところであります。

また、11月1日には、「子ども・若者育成支援強調月間」に合わせ、岡谷駅、岡谷西部中学校、岡谷南高校の3箇所街頭啓発を行いました。

教育委員の皆様にも早朝からご参加いただき、大変お疲れ様でした。私も岡谷西部中学校で啓発活動を行いました。中学生ですので、はにかんでしまってなかなか声が出ないお子さんもいますが、会釈をしたり視線を向けてくれたことが嬉しかったです。また、反射たすきを全員がしており、交通安全の意識を学校全体で大切にしていることが分かりました。青少年が、自らの役割と責任を自覚し、心豊かにたくましく成長できるよう、関係団体の皆さんと協力しながら、取り組んでまいりたいと思っております。

最後にスポーツ振興課関係を報告させていただきます。

やまびこ国際スケートセンター屋外リンクの営業開始について報告させていただきます。今シーズンの営業は11月23日から来年の2月15日までとなります。現在、施設管理を委託している「株式会社やまびこスケートの森」において、オープンに向け、安全で滑りやすい氷づくりに取り掛かっていただいているところであります。

今年はオープンに先立ちまして、4年ぶりとなるオープニングセレモニーを行い、代表選手から今季の決意表明をいただくほか、セレモニー終了後は親子で参加できる初心者向けスケート教室が計画されております。また、終日滑走料を無料としておりますので、多くの皆様にご来場いただき、初滑りを楽しんでいただきたいと思いますと思っております。

今シーズンもスケート人口の拡大、競技力向上を図るため、各種事業に取り組んでまいりたいと考えております。

私からの報告は以上であります。それでは本日の議題に入ります。

議題1「次期魅力と活力ある学校づくり推進プラン後期計画の策定につ

宮坂教育長： いて」を事務局からお願いします。

○議 題

1. 次期魅力と活力ある学校づくり推進プラン後期計画の策定について

<資料1に基づき、事務局より説明>

太田教育長職務代理者： 次回の定例教育委員会で、今後の施策について検討する旨のお話がありました。課題の認識について大きく変える必要は無いと思います。課題を認識して今後どのような施策を実施するかが大切だと思います。

個人的な意見になってしまいますが、「課題(9) 地域とつながり、支えられる学校づくり」につきまして、学校は一方的に支えられる存在ではなく、地域を支えている一面もあると思います。これからは学校が拠点になって新しい地域コミュニティとなる可能性もあるので、「支え合う」という表記が良いと思います。

高木教育委員： 3 学校教育における現状と課題の(3)につきまして、ふるさと回帰の心を育むことと、その有用感に満たされた幸せを実現することは、もちろんつながりはありますが、別のことだと思います。可能なら(3)を二つに分けて欲しいと思いました。未来を担う担い手となる子どもたちが自ら主体的に考え、の部分が先に来て、そしてふるさと回帰の心を育むということなら1つの項目でも良いと思いますが、できれば2つに分けてほしいと感じました。

林教育委員： 前期5年間の計画を策定した時と比べて、例えばコロナ禍があったので、大きく状況が変わったところもあると思います。前期計画と後期計画の大きな違いはありますか。

事務局(両角)： 前期計画にもある、ふるさと回帰の心は岡谷市が従来から大切にしている子どもたちの心の育て方の取り組みです。有用感に満たされた幸せを実現する、という部分は国や県がトレンドにしているウェルビーイングという5年前にはまだ無かった言葉を意識して、子どもたちの心を捉えた文章にしています。

岡谷市の最上位計画である総合計画における、教育分野の現状と課題と調和を図って、文章を整えています。前期計画の項目数が4つでしたので、バランスを整える意味も込めて策定をしていますので、このレイアウトで行かせていただきたいと思います。

また、社会情勢の変化は時点を捉えて反映をしていきたいと思っています。例えば生成AIも今後教育にどのように活用していくのかは国でも議論されていますし、コロナ禍も3年間ありました。いじめや不登校の問題についても、社会的な状況や国、県、市の取り組みを含めて、文面化をし

事務局（両角）： ております。ただし具体的な取り組みにつきましては、次のステップと考えていますので、今回はこのような内容で整えました。

小平教育委員： 最初の推進プランが策定されたのが2019年で、その間これだけ世の中が変化していることが驚きです。プランの中には継続されてしっかりと育まれている項目とこれからしっかりと取り組まなければならない項目の2つに分かれると感じました。施設の設備やインクルーシブ教育など、きめ細かく対応してくださっていることを感じますし、郷土に関する勉強もスタンダードカリキュラムがしっかりと作られていると思いますので今後も続けて欲しいと思います。

項目別課題の（7）郷土を愛する心の醸成が、スタンダードカリキュラムに繋がると思うのですが、歴史などの古いことを伝えるときに、ICTを活用して伝える方法もあると思いますので、そのようなニュアンスがあれば良いと思いました。

（4）いのちを守る教育の推進について、相談しやすい体制づくりが本当に大切だと思います。ヤングケアラーも比較的新しい言葉だと思います。新しい問題もしっかり提起されていて、良い内容だと思います。

藤森教育委員： （11）教員の働き方改革の推進につきましては、以前から叫ばれていることで、大きな課題の一つとして引き続き取り組んでいく必要があると思います。今朝の信濃毎日新聞で、長野県の小中学校教員の欠員が46名という記事が一面に載っておりました。働き方改革は今までの仕組みを練り直して、今の職場を働きやすい職場にしていく、という意味で捉えています。若い人たちが学校の先生を目指してやりがいをもって働けるような、魅力ある学校づくりができれば良いと思います。子どもや保護者だけでなく、先生にとっても魅力ある学校にしていくという視点も必要かと感じました。

宮坂教育長： いただいた意見を参考にしながら、次回に提案をさせていただきたいと思います。

9月の定例教育委員会では、魅力と活力ある学校づくり推進プランの前期5か年計画の進捗状況報告を行い、学校教育の現状把握と課題整理を進めました。今後も本計画に則り、「岡谷市教育大綱」に掲げた教育理念の実現を目指してまいりますので、ご協力をよろしく申し上げます。

それでは議題1につきましては以上とさせていただきます。続いて議題2「いじめ・不登校の状況について（上半期）」を事務局より説明をお願いします。

2. いじめ・不登校の状況について（上半期）

＜資料2に基づき、事務局より説明＞

小平教育委員： 不登校は問題行動でないと文科省も言い切っている旨、説明をしていただきました。その言葉でとてもほっとする保護者の方も多いと思います。生徒さんや保護者の方それぞれに悩み事があると思いますし、やはりいじめ件数や不登校児童生徒数といった数字だけではなく、個々に子どもの状態を見て支援をしていくことが大切だと思います。令和4年度のいじめの発覚について「本人」または「当該児童生徒の保護者の訴え」が60.7%なので、相談しやすい環境が揃っているのかと思いました。

先日の教育委員研修で、学校を立ち上げた方の講演でしたが、「学校が生徒を受け入れるという言い方ではなく、様々な子どもたちがいることが当たり前。」という内容のお話がありました。受け入れるという言い方も上からの目線であるとお話でした。子どもたちが持っている学ぶ権利のため、場を整えてあげることが大切なのかと思いました。

フリースクールについても、フリースクールだけでなくどのような環境でも学べるように、今後は場を整えていく動きになると感じました。そのためにも相談しやすい環境はとても大切だと思います。どのような要望や問題点があるか、コミュニケーションを取って把握することが大切だと思います。

事務局（林）： 相談しやすい環境について、いじめについては早い発見と発信を岡谷市では大切にしています。近くにいる親や教員が気付いて発信できるような環境が大切です。子どもたちにはSOSの出し方学習や、各学校に相談員を配置するなど、対応を進めております。教員がいじめを見逃ごさないかという点も非常に大切だと思っておりますので、学校で校長教頭を中心に、小さなことを見逃さない、そして1人ではなく集団でその問題に気付くように取り組んでいただいています。

不登校についてですが、民間のフリースクール等に通っている子どもがいます。民間の方々との連携も以前から行っていましたが、今年はより力を入れています。県もフリースクール等の認証制度を立ち上げる準備を進めていまして、今後も関わりながら進めていきたいと思っています。

太田教育長職務代理者： 現場の感覚をお伺いしたいのですが、これから県でフリースクールの認証制度を作るということで、フリースクール自体が世間に認知される時代になってきました。

たまに家族で旅行に行くときに学校を休んで良いか、といった話になり

太田教育長職務代理者： ます。良い悪いは別にして、時代の変化と共に学校を休むことに対するハードルは下がってきていると思います。そのことと、不登校生徒が増加していることは関係があるのでしょうか。

事務局（林）： 関係が顕著に表れているとは、現時点では言えないと思います。しかし学校に来ないことに対する社会の意識は変わってきていると思います。ますます学校に足が遠のく子どもが出てくることを心配しております。不登校の問題は、魅力ある学校をどう作っていくかとも関わっておりますし、生徒一人ひとりにどのような支援が必要か見極めることも必要です。

太田教育長職務代理者： 最終的には一人ひとりのお子さんの心であり、家庭の事情もあります。1件ごとに必要な対応が異なる、という姿勢を持っていると思いますので、今後もそこを重視していただければと思います。

高木教育委員： いじめを受けた生徒の相談先について、50%は学級担任に相談しているということですが、相談をするという行為は非常に勇気が必要です。2人に1人が学級担任に打ち明けることができているので、生徒と先生の信頼関係が築けているのだと思います。今後も先生方には、心と耳を開いていただきたいと思います。

先日、東部中学校に伺ったときに合唱の授業を拝見しました。ほとんどの生徒がマスクをして歌っていました。インフルエンザも少し流行っているのですが、マスクを外せない生徒が多いようです。マスクをしている状態では心を開くことも難しいと感じています。先生方も子どもも、心が開けるようにこれから取り組みをしていただければと思います。

藤森教育委員： いじめの認知件数の推移をお示しいただきました。数字だけがすべてでないことは承知していますが、本市においてはいじめの認知件数は減ってきていることが分かります。いじめ根絶子ども会議を実施していることも一定の成果につながっているのではないかと思います。

いじめが一切ない学校になることが理想ですが、集団生活をする中で人間関係もあり、なかなか難しいことだと思いますが、認知件数が減っていることは、地道な取り組みの結果だと受け止めています。少しずつ少子化で児童生徒数が減っているので、大きな変化はないと思いますが、件数ではなく全体の生徒数に対するいじめ認知件数率とするのも良いかと思えますのでご検討をお願いします。

事務局（林）： いじめの認知件数につきまして、対象のケースが少ないため年度によって大きく上下してしまうこともあります。数字の表示については今後も検討を続けたいと思います。

林教育委員： いじめには様々なケースがあり、なかなか発生件数をゼロにすることは

林教育委員： 難しいと思います。ですが、誰にも相談できず1人で抱え込んでしまっている子どもも必ずいると思います。そうなった時のために電話相談のシステムがあると思うのですが、最近は固定電話が無い家が多いです。電話をする術もない子どもが相談をしたいとき、多様化している時代の中で、受け入れる体制についても、模索しても良いのかと思いました。

事務局（林）： 定期的にいじめのアンケートは実施しており、アンケートで発見するいじめもあります。アンケートに書くことができない事情があれば他の相談手段を確立する必要もあると思いますので、今後模索していきたいと思います。

宮坂教育長： いじめの認知件数について、未然防止により少ないことに越したことはないのですが、岡谷市では、わずかなことであっても起こった時にその対応をすぐに行うようにしております。そして対応をチームで行っております。

不登校についても、上半期で件数は増えてしまいましたが、やはり大切に行っているのがチームで対応を行っているということ、そして継続して声をかけていくことです。すぐに結果は出なくても、小学生が中学生になった時に学校に来れるようになった事例も聞いておりますので、子どもの心に寄り添って対応したいと思います。

いじめの認知のためのアンケートの他に、各学校の校長室にポストがあります。現職の時に、ポストに相談してくれる子どももいました。中にはいじめの相談ではなく、勉強で頑張ったことを報告してくれる子どももいましたが、それも大切なつながりだと思います。どこかでつながりがあれば相談もできるようになると思います。

課題も多く、原因も分からないような事例もありますので学校の先生方も非常に悩んでいるところでもあります。つながりを大切にチームで取り組んでいきたいと思います。

本日の議題は以上です。続いて報告事項1「令和6年度予算編成方針について」を事務局からお願いします。

○報告事項

1. 令和6年度予算編成方針について

<資料3に基づき、事務局より説明>

宮坂教育長： ありがとうございました。

次に報告事項2「川岸学園設立準備室 視察について」につきまして、事務局よりお願いします。

2. 川岸学園設立準備室 視察について

<資料4に基づき、事務局より説明>

- 太田教育長職務代理者： 配置図を拝見すると各学年に4クラスずつあります。町ですが人数が多く、調理室でも2,200食を調理されているとの事ですが、学校の規模はどの程度なのでしょう。
- 事務局（新村）： もともと小学校が3つ、中学校が1つあったものを義務教育学校2つにした経過があります。北学園と南学園に加えて、認定こども園や保育園の給食をすべてここで賄っています。
- 藤森教育委員： 先日、岡谷エコロータリークラブの席で、川岸学園の視察のお話をさせていただきました。大事業で市民の皆様へ発信していかなければならないと改めて感じました。本事業ですが、川岸学園の設立に向けたロードマップのようなものをお示しいただけるのはいつ頃になるのでしょうか。
- 事務局（両角）： 基本構想に基づく基本計画、要はイメージを今年度公表予定です。令和6年度の実行予算の具体的な取り組みに向けて、例えば施設の設計依頼までできるかと思っております。第4四半期に新年度予算が出てきますので、そのタイミングに合わせて、川岸学園のイメージをお示しする予定です。
- 藤森教育委員： 地元の皆さんの関心が高いので、聞かれる機会も多いです。どうぞよろしく願います。
- 高木教育委員： 他の市町村では、義務教育学校の授業時間が1年生から9年生まで同じである学校もあるようです。今回の北学園は、保育園が1階と2階にあって、3階に4年生の校舎があるようですが、例えば窓を開けて授業をしていると、かわいい子どもたちの声が聞こえてくるのかも、と思いました。そういった本当に細かいところも見て考えていく必要があると思います。今回はどうだったのでしょうか。
- 事務局（新村）： すぐ近くに校舎がありますので、子どもたちの声は聞こえると思います。
- 宮坂教育長： 全国の取り組みを見ますと、時間割が小学校45分、中学校50分でどうしても同じにはならないので、例えば朝昼午後の始まりだけチャイムを鳴らしている学校もあります。他には中学校のテスト期間は、小学校に静かにしましょうと掲示をしたりしているようです。ですが、幼保小中が一緒になると、学年交流が当たり前のようにできることが大きなメリットです。学校それぞれで思いを持って、工夫しながらやっています。
- 小平教育委員： 新築の給食室について、素晴らしいと思いながら資料を見ていましたが、完成した給食はどのように運ぶのでしょうか。
- 事務局（新村）： 敷地の外を通過して、車で配膳室まで運びます。以前は小学校と中学校の

事務局（新村）： 間に市道があったのですが、廃止してあります。北学園では町民から市道の廃止で反対意見が出たようですが、川岸学園の土地では廃止となるような道はありません。

小平教育委員： 職員室も校庭を見渡せるようなレイアウトでとても良いと思いました。今回の視察で、マイナス面でリサーチできたことはありますか。

事務局（新村）： 義務教育学校全般に言える事ですが、6年生の活躍の場が減るのではないか、といった心配があります。他には15年間同じ環境なのでその間に、いじめがあったらどうしようかといった心配もあるようです。いじめの問題に関しては、北方町は面積が小さい町なので、転校ができるようにしているようですし、小中学校の先生方も常日頃からいじめを見つけたら早めに取り組むようにしているようです。

宮坂教育長： ありがとうございました。
次に「その他」につきまして、事務局よりお願いします。

○その他

・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

宮坂教育長： ありがとうございます。
その他連絡事項等ありますでしょうか。
今までのところで何かご意見等はございますか。
本日子定しました議題は以上ですが、全体を通して何か質問等ございますか。

教育委員さんから何か報告事項等ございますか。

それでは事務局より次回の開催予定についてお願いいたします。

事務局（両角）： 次回の定例教育委員会は
12月12日（火）9：30～ 岡谷市役所6階 605会議室を予定しています。
よろしくお願いいたします。

宮坂教育長： ありがとうございました。
以上をもちまして、本日の会議を終了とさせていただきます。

12時00分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 5 年 12 月 12 日

教 育 長

宮坂 享

署 名 委 員

藤森 一俊

署 名 委 員

林 慎太郎

調 製 職 員

白上 淳